

## アロマコーディネーター講座レッスンテキストブック内容変更（第6～8版）

2012年8月1日発行の第6版より、このたび2013年6月1日発行の第8版にて、以下変更点がありますので、ご案内いたします。

ページ	変更内容
P 1	Lesson1 表紙 「アロマコーディネーター」の定義を追加（内容はテキストを参照ください）
P 15	(6) 抽出方法ごとの主な精油の分類表 有機溶剤法（溶剤抽出法）に ネロリ、ローズ（アブソリュート）を追加
P 20	最下部の欄外の注釈 「性質欄の不乾性・半乾性・乾性とは・・・」を全文削除 前回の校正もれです
P 21	グレープシードオイル 説明文 他の植物オイルに比べてトコフェロールを多く含むため酸化しづらいオイルです。  微量成分中に含まれるビタミンEには抗酸化作用があり、グレープシードオイルには他の植物オイルに比べて多く含まれています。 に変更
P 31	7.トリグリセリド 7.植物オイルに含まれる脂肪酸について に変更  説明文を変更  私たちがトリートメントに用いるホホバオイル以外の植物オイルは、3つの脂肪酸とグリセリンが結合した脂質（トリグリセリド）です。 脂肪酸には大きく分けて飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の2種類があり、それぞれ性質が異なります。
P 32	パルミトレイン酸 を追加  パルミトレイン酸 ヒトの皮脂中に含まれる脂肪酸で加齢と共に減少します。皮膚や血管への活性効果と皮膚の柔軟性を保つ働きがあります。
P 42	<手順2：精油をブレンドする> 5行目 O-リングテストを用いると現在のあなたにぴったり合ったローションが作れることでしょう。  アレルギーテストを参考に、あなたにあった精油を選びましょう。 に変更

P50	<p>3.香りの流れをおさらいしてみましょう の模式図を変更し、右側の説明文も追加</p> <p>匂いの刺激は、嗅細胞で電気信号へと変えられ、嗅神経（嗅覚受容神経）から嗅球内の糸球を経て脳へと送られます。 この嗅細胞から脳へと至る構造全体を、嗅神経（第 脳神経）とも呼びます。</p> <p>「梨状皮質」より先は既存の内容と同様です</p>
P70	(3) ミイラ作りのシダーウッドを シダーウッド(アトラス) として特定
P75	(6) アロマセラピーの進歩(16世紀) 3行目  「本草綱目」「本草綱目」 3文字目の「綱(アミ)」「綱(ツナ)」
P76	(9) 化学薬剤の発達 全文を以下に変更  17世紀になると鍊金術が懷疑的となり、無機化学が発達し始めました。 一方、有機化学が誕生したのは19世紀初めで、モルヒネやカフェイン、キニーネ、ニコチンなど、さまざまな植物塩基(アルカロイド=植物由来の含窒素化合物)が抽出されるようになりました。
P84	3.各々の危険性について  3.各々の安全性について に変更
P90	(5) 光感作(光毒性) を (5) 光感作 (6) 光毒性 の2つに分類  (5) 光感作 定義 感作(アレルギー)を持つ成分を体内に取り込んだ後に、紫外線に当たることで示すアレルギー反応をいいます。アレルギー反応なので、塗布した皮膚以外にも症状があらわれることがあります。また、少量でも反応が出ることがあります。  (6) 光毒性 定義 精油を皮膚に塗り、紫外線に当たることで起こる皮膚の炎症をいいます。精油を皮膚に塗っただけでは起きませんが、紫外線のエネルギーを吸収した成分が、皮膚に色素沈着や炎症反応などを起こします(基本的に塗布した部分のみに反応が出ます)。ひどい場合には発ガン(光発ガン)のおそれがあります。

P 96	<p>&lt;手順 2：精油をブレンドする&gt; 3~4 行目 O-リングテストを用いると、現在のあなたにぴったり合ったマウスウォッシュが作れる ことでしょう。</p> <p>アレルギーテストを参考に、あなたにあった精油を選びましょう。 に変更</p>
P 129	<p>&lt;準備するもの&gt; 1~2 行目 無水エタノール 30cc、ミネラルウォーターまたは精製水 20cc</p> <p>無水エタノール 12cc、ミネラルウォーターまたは精製水 8cc に変更</p> <p>50cc の空容器（ローションで一度使ったもの）</p> <p>20cc のスプレー付き空容器 に変更</p> <p>&lt;手順 1：60%のアルコール水を作る&gt; 1 行目 20 cc測り</p> <p>8 cc量り に変更</p> <p>&lt;手順 2：精油をブレンドする&gt; 2 行目 合計 40 滴 合計 16 滴 に変更</p> <p>エアーフレッシュナーの使い方 1~2 行目 直接肌に付けるのではなくて、カーテンやテーブルクロス、ナップキン、クッションなどお部屋の小物に付けましょう。またマウスウォッシュ用の容器に移しかえてスプレーしてもよいでしょう。</p> <p>直接肌に付けるのではなく、空間にスプレーするか、カーテンやテーブルクロス、ナップキン、クッションなどお部屋の小物に付けましょう。 に変更</p>
P 140	<p>&lt;手順 2：精油をブレンドする&gt; 2 行目 ( 今回は 25%で香水を作ります ) を削除</p>
P 141	図の右側 精油 25 滴 精油 20 滴 に変更
P 147	アルデヒド類 の [主な成分] を変更  アニスアルデヒド、シトラール（ゲラニアール、ネラール）、シトロネラール、クミンアルデヒドなど
P 155	精油の禁忌を示す成分 の 説明文を変更  Lesson 1 3 で学習したファミリーごとの成分を・・・

以上、お手元での追記・修正をお願いいたします。

平成 25 年 6 月 1 日  
J A A 事務局